



～夢・未来へ～
町民と議会をつなぐ

第**66**号
平成27年7月15日

河津町議会だより

主な内容

- 平成27年第2回定例会(要旨)..... 2P
- 町長の行政報告(抜粋)..... 3P
- 一般質問..... 4～10P
- 一部事務組合報告、議員説明会..... 11P
- 議会の動き、私セー言、編集後記..... 12P

平成27年第2回定例会(要旨)

第2回定例会は6月9日、10日に開催された。議長諸般の報告と町長の行政報告に続いて7名の一般質問が行われた。提出された議案は同意1件、承認3件、報告1件、議案6件、選挙1件、発議1件を審議し、可決承認された。

●同意第3号 (人事案件)

固定資産評価員の選任について
鳥澤俊光 (全員賛成)

●承認第1号 (専決処分)

平成26年度河津町一般会計補正予算(第7号)
歳入歳出それぞれ11万2千円を追加し、総額4億4072万4千円※繰越明許費補正。(全員賛成)

●承認第2号 (専決処分)

平成26年度河津町一般会計補正予算(第8号)
地方譲与税等歳入見込みによる更正。
(全員賛成)

●承認第3号 (専決処分)

河津町条例等の一部を改正する条例について

地方税法等の一部が改正されたことに伴い、軽自動車税の税率改正等。
(全員賛成)

●報告第1号 (報告案件)

平成26年度河津町一般会計繰越明許費繰越計算書について
平成26年度繰越明許費を翌年度に繰越した。

●議案第26号

河津町国民健康保険条例の一部を改正する条例について
軽減措置に係る軽減判定所得の算定方法の改正。(全員賛成)

●議案第27号

河津町介護保険条例の一部を改正する条例について
保険料の減額賦課に係る保険料率の改正。
(全員賛成)

●議案第28号

静岡県市町総合事務組合規約の変更について
「伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合」が静岡県市町総合事務組合に加入した。(全員賛成)

●議案第29号

平成27年度河津町一般会計補正予算(第1号)
歳入歳出それぞれ2億97万6千円を追加し総額42億7497万6千円。
(全員賛成)

●議案第30号

平成27年度河津町介護保険特別会計補正予算(第1号)
歳入歳出それぞれ12万9千円を追加し、総額8億6852万4千円。
(全員賛成)

●議案第31号

平成27年度河津町水道事業会計補正予算(第1号)
水道量水器設置替事業の補正。
(全員賛成)

●選挙第1号 (選挙)

静岡県後期高齢者医療広域連合議員選挙
定員4名に5名の町議会議員が立候補し、各町の投票結果により4名が当選した。

土屋舜太郎(河津町)、榊原淑友(森町) 佐野俊光(清水町)、中田隆幸(川根本町)

●発議第1号 (意見書)

最低賃金の大幅引き上げと中小企業支援策の拡充を求める意見書の提出について
中小企業の支援策を拡充すること、最低賃金を見直し、全国一律最低賃金を確立すること、最低賃金の大幅引き上げに取り組むことを求める。

提出先 内閣総理大臣 安倍晋三ほか
(賛成)

●議員派遣の件 (承認)

●議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件 (承認)

●議員派遣の件 (承認)

※繰越明許費：歳出予算の内、当該年度内に支出を終わらないものに付き、翌年度に限り使用できる経費。

訂正：65号P2 平成27年度一般会計予算(誤)40億740万円(正)40億7400万円でした。お詫びして訂正します。

町長の行政報告(抜粋)

●職員の人事異動

4月1日付で36人の人事異動を発令した。平成26年度末の退職者5名、その補充として一般事務職員4名、保健師1名を新規採用した。

●消防団操法大会

平成27年度静岡県消防協会賀茂支部消防操法大会が、6月14日松崎町で開催される。ポンプ車操法の部に第7分団、小型ポンプ操法の部に第3分団が出場する。

●デジタル防災行政無線整備事業

防災行政無線のデジタル化に伴い、各自主防災組織に6月2日、3日両日説明会を行った。



消防団、学校等、公共施設にも順次運用予定。

●風力発電事業

現在、全体工事が終了し試験運転中、本稼働は9月頃の見込。今後、町民向けに見学会を予定。

●ふるさと納税事業

今年度から返礼品制度を導入、23事業者から40品目の申し込みがあり、新たな制度のPRを図り、新規寄付者の増大をめざす。

●(まち・ひと・しごと創生)総合戦略関係事業

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金が、3月26日交付決定された。地方版総合戦略の策定、地域資源を活用した6次産業化の推進、インバウンド対応、子育て推進、消費喚起、プレミアム商品券発行事業等を実施予定。

●複合施設整備事業

公共施設整備計画推進委員会より3月31日に答申を受けた。子育て支援施設、300席の可動式ホール、貸付事務所を設け、

屋上は避難場所機能をもった施設計画となっている。建設場所は、南中学校跡地を適地とし整備計画を進めていく。

●光ファイバー網整備事業

上河津局の光ファイバー整備事業は、NTT西日本静岡支店を事業者に選定した。今年度末のサービス提供を予定。

●介護家族の会

高齢者や認知症の方などの介護をしている家族を支援するため、家族同士の交流や情報交換などを通じ、介護家族の負担軽減および心身のリフレッシュを目的に、介護家族の会(通称チェリー)が設立された。

●有害鳥獣対策

狩猟的な免許取得費用の補助金支給を開始した。被害にあっている方は、狩猟wana等による自力捕獲も検討していただきたい。

●観光施設の利用状況(平成26年度)

踊り子温泉会館、71,529人で前年度比2,093人増、伊豆見高入谷高原温泉、入浴者、10,404人で前年度比1,739人増、コテージ利用者、1、

068人で前年度比395人増。カーネーション見本園、11,572人で前シーズン比708人増。花菖蒲園、5月末現在で6,718人、前年同期比347人増。そのほかに、カーネーション園の援農ツアーに370人の参加があった。

●伊豆縦貫自動車道路関係事業

平成27年度全体事業費66億2700万円が決定、そのうち河津下田道路(2期)区間の事業費として27億円が決定した。町道逆川神田二反田線が完成し、3月27日に供用開始。今年度、天城峠区間について事業化に向け概略ルートと構造の検討を行う計画段階評価へ移行することとなり、全線開通に向けて大きな弾みとなった。

地方では、いまだ景気低迷が続いている状況です。厳しい財政状況のなか今後も一層の行政運営の効率化に努め、町民本位の施策を進めてまいります。

子ども・子育て支援新制度の対応は

町長「町の支援により解決できる事は 解決できる様努力する」



渡邊 弘 議員

質問：子ども・子育て新制度が施行されたが、まだ取り組まれていないことがある。施設の運営の指導はどうか。保育時間の問題、多子世帯の保育料軽減の問題、保育認定の事由も含め、国の定めた新制度の支援策の対応をどうするか。

町長：父兄の皆様から直接要望もいただいている。早速施設にも出向き対応を検討している。町として金銭的なものも含め解決できるものは解決するよう努力する。いろいろな状況があるが、制度により協議し、ご理解をいただけるようできる限り調整を進めていきたい。

複合施設の内容は

町長「答申の内容を見ながら具体化へ」



旧河津南中学校跡地

質問：基本設計発注に当り、施設の内容はどのような施設か。完成後のランニングコストは検討されているか。

町長：子育て機能、文化学習機能等ホールの設置。又、防災機能も考えている。

能も考えている。施設の管理費も十分配慮し取り組む。

ふるさと納税、現状と方向は

町長「事業者の皆様は河津ならではのメニューを」

質問：ふるさと納税事業は担当者を決めて取り組んでいるか。応募の内容は。この事業は町全体のアピールをし交流人口を増加させる商品が必要と考える。体験型商品、史跡巡り、旅館、食堂等河津町ならではの商品が必要と考えられる。

町長：他の地域と同じ様なものでなく、河津町の特徴ある商品を提供したいと思う。体験クルーズ、塩づくり、等体験も含め河津ならではのメニューを出してほしいと考えている。活性化のため協力をお願いしたい。

町長選における相馬町長の考え方は

町長「公的病院は財政負担」

質問：今井浜病院の誘致について、平成22年、町長選挙において当時、「町内への病院建設は、町の大きな負担であり、運営費は、町の税金、町は破産します。」と選挙用ビラでも述べていたが、現在どのような状況になっているのか。

町長：病院建設問題が争点で、町単独で公的病院を建設し、運営することは、大きな財政負担を招くということで、一部事務組合による公的病院の建設に向け推進を図った。

今現在建設されている今井浜



上村和正 議員

保健福祉課長：平成25年度の状況について。

下田メディカルセンターの現状は

町長：通院状況を見ると、当町では通院全体の約3%で、不便性は感じていない。産婦人科は申し入れてあるが開科はしていない。

質問：公約でもある、下田メディカルセンターに直行バスの運行や、産婦人科はいつ頃出来るのか。

町長：通院状況を見ると、当町では通院全体の約3%で、不便性は感じていない。産婦人科は申し入れてあるが開科はしていない。

町長「医師不足の解消を」

質問：運営状況及び利用状況について。

観光振興における人事異動は

町長「怠っている事は一切ない」



旧河津南中学校跡地

況では、収益的収入は、3億1833万円、支出は、4億8410万円。資本的収入は、9054万円、支出は、2億4390万円である。病院と職員宿舍建設費、23億7900万円、平成25年度末の旧病院合わせての起債残高は、32億8689万円。平成26年度利用状況は、外来者数、5万4千人。入院患者数、2万5千人。そのうち河津町民利用状況は、外来者数1396人、25%。入院患者数1516人、58%である。

町長「怠っている事は一切ない」

町長「怠っている事は一切ない」

質問：町長は、この町が本場に観光立町だと考えているか。観光を担当する産業振興課長が、この4年間で4人変わっている。前任者がつけた予算を後任者が執行する。こんな事を4年もやっ

「花の町河津」の推進は

町長「費用対効果も鑑み閉園」

町長：何ら観光政策において不備をなしているというようなことではない。退職される方も含めて、人事異動している。

質問：町民第一に仕事をしていかなければならない。役場の都合で仕事をせず、町民の都合で仕事をしたい。

質問：町の花をアピールする花菖蒲園の廃園後の方向性は。

町長：路地植えによる連作障害と近年の疾病等により、花菖蒲自体の生育が不良になり、今後の回復が望めないこと、また、木道等を更新するのに多大な費用がかかるというようなことで、閉園する。もし、花の公園等をやっていた方がおられる様であったら応援したい。



地方創生の取り組み、現在の進捗状況は

まちづくり推進課長「年度内策定に向けて進めている」



遠藤 嘉規 議員

質問：河津版総合戦略の策定の進捗状況はどの様になっているのか。

町長：国が進める地方創生総合戦略の基本目標は、私の政治姿勢である、共生・共創・共働に合致している。今年度は交付金を活用して、いろいろな事業を予定している。

まちづくり推進課長：現在策定委員会の人選を行っている。7月に第1回の委員会を開催する予定。

質問：対応が他の市町と比べて遅い様に感じるが。

まちづくり推進課長：役場の各

課、策定委員会、県との連携をもって12月までに素案をまとめ、年度内に計画を策定する。

質問：計画策定支援を企業へ委託するという事だがどの様になっているのか。

まちづくり推進課長：副町長を委員長とする選考委員会を設置し、業務を遂行できる複数企業から説明を受け、事業提案の内容、事業費、意欲等により選定する。

災害発生時の避難所の運営はどのような計画か

総務課長「マニュアルが整備されている。」

質問：河津町で避難所を設置した場合、誰が責任者として運営を行うのか。

総務課長：施設管理者、自主防の代表者、町の保健福祉班の3者で構成する避難所運営組織で対応に当たり、状況に応じて責

任者を配置する。

質問：避難所ではプライバシーの確保などで、女性や災害弱者が辛い思いをする事例が必ず報告される。町では事前の対応を検討しているのか。

総務課長：避難所での二一ス把握の為、女性職員を配置したり、要援護者用の窓口を設置して対応する必要がある。このような課題を踏まえ対応をしていきたい。

において、土日祝祭日こそ支援が必要だと考えるが。

質問：食料の備蓄は現在も、取り組んでいるが、観光地である事を考えると、それだけでは足りない事も考えられる。町内の商店等と事前に協力体制を築く必要があるのでは。

観光立町にふさわしい子育て支援が、されているのか

保健福祉課長「民間で対応するのも一つの方法」

質問：観光産業が基盤の河津町



東日本大震災当時 岩手県避難所

町長の施策が見えない。町民は不安を感じている。

町長「何をすれば評価して頂けるのか難しい。自分なりに政策に沿って進めている。」

スポーツ施設について

質問：我が町から30年以上オリンピック選手クラスのスーパースターと呼べる程のスポーツ選手が出現していないのは、施設が無いことが大きな原因であると思うが、またスポーツ施設があれば大学生、社会人等クラブチームの合宿誘致で観光業にも貢献できるが。

教育長：オリンピッククラスとまではいかないまでも、当町の子供たちも頑張っている。

教育委員会事務局長：公共スポー



塩田 正治 議員

ツ施設保有数は、県内最低レベルであるが、未整備体育施設の代替えとし、学校施設を開放有効利用されている。

質問：スポーツ施設は、最低限必要なインフラと考えるが、今後の予定は。

町長：必要性は感じているが、財政、利便性、運営費等もあり今現在考えていない。

中高生のバス利用について

質問：東海バス利用率を上げるために、定期券補助だけでなく、寿回数券と同様な割引サービスができないか。

総務課長：通学定期は半額補助、回数券は10枚分の購入で13枚と以前より割引率を上げた。

質問：さらなる利用率向上のため、より使い勝手の良いものになるように、利用者の方々の声を反映させてほしい。

世界文化遺産に登録された葦山反射炉について

質問：伊豆の国市長が、関連市町でサミットを開催したいと発言しているが。

教育委員会事務局長：まだ正式にオファーはない。打診があれば協力していきたい。

質問：当町の関連施設、沼の川にある登り窯までの進入路は未舗装部分が多く観光誘致できる状況にないと思われるが。

教育委員会事務局長：正式登録され、今後見学者が増えるような状況になれば、安全対策の観点から対策を考えていく。

質問：正式登録された時には、ターゲットは世界になるので特別チームを編成して対応してほしい。

夜間、休日議会について

質問：政治離れが著しい若者達に興味を持ってもらうため、参加して意見を言ってもらうため、将来必ず必要になる時が来ると考えるが、当局は考えたことがあるか。

町長：議会運営に関しては議会運営委員会が日程等決定している。町は考えた事は無い。

質問：メリット、デメリットは。総務課長：町として大きなメリットは無い、デメリットは職員の配置人件費等経費が膨大に増える。

質問：欧米諸国では、夜間、休日議会は当たり前のことで若者の考えが反映されている。近い将来の実現を望む。

町長の政治姿勢について

質問：町長はこれまで株式会社バガテル公園の解散等、壊すという事は、いろいろやってきた。それを否定はしないが、かわりに何かを造り上げたり、企画したりということはあまりしてないと思う。町民は、そのことに對し、不安を募らせているという声を聞くが。

町長：これまでに仏像展示館、舟戸の番屋などつくってきたが、何をしたら評価していただけなのか難しい問題である。

質問：難しいなどと、弱気なこととは言わず、リーダーシップを発揮してほしい。

27年度保育申込・入所はどうか

町長ー保育認定は68名。保護者の意見は、町の支援で解決するのなら調整に取り組む



小林 和子 議員

質問：保育の申込状況を年齢別に問う。保育時間、園の運営についてなど多様な保護者の要求にどう対応されたか。

町長：個々の件には担当の方から園に申し入れ、対応を協議している。私も園に行き話をしてきた。町の支援により解決できるものもあれば、園の方針で変更不能いこともあると聞いている。

保健福祉課長：68名の内訳は次の通り。
42名は町内保育所へ、10名は下田市へ、4名は事業所内保育

所へ、1名は町外認可外保育所へ、保育ママの利用は7名、3名は入所を見合わせ。

教育委員会事務局長：幼稚園3歳児の入園状況は27名である。
質問：保育申込は1歳・2歳が多い。この年代のこれからの保育計画はどうなるか。

保健福祉課長：地域支援事業を新制度に4つ盛り込んだ。運用の形は今後検討していく。

質問：資格取得補助・奨学金について問う。高校生には月7千円の育英奨学金の制度がある。また保健師を旨とする方に月5万円の就学資金貸与制度がある。これからの社会には医療福祉関連の職が必要とされてくる。資格を身につけ働いていただく。優秀な人材を育てるという面からも検討するべき課題と考える。町の考えを問う。広報はしているか。

*参考

【東伊豆町の奨学金の例】
高校入学時貸与金20万円、月に2万円の奨学金。
大学・専修学校について
入学時貸与金50万円、月3万円の奨学金(返済義務あり)

町長：これから栄養士、看護師、社会福祉士等について、他自治体の補助例も聞いているので検討をしていく。奨学金については余り利用はなく25年度は1名が利用。他市町の利用状況を調査して取り組めるかどうか判断したい。

保健福祉課長：保健師就学資金制度利用者はこれまでに2名。取り組みの広報はしていない。

狩猟時の安全対策は

産業振興課長ー駆除の区域が重ならないように自主規制

質問：近隣市町の猟銃事故に鑑み、町の安全対策について問う。

町おこし改革についての取り組みは

町長ー地域資源を活用して町おこしをする

質問：町おこしに今後何をやるのか。

町長：6次産業の推進、インバウンド対策の情報発信事業等に地域先行型の交付金を活用していく。

ふるさと納税について

町長ー返礼品には河津らしいものを

質問：返礼品の品揃え状況や周知、告知方法、PRなど町の取り組みは。
町長：返礼品には河津らしい特産物や体験メニューを提供したいだけではない。



仲 里 司 議員

ひとり暮らしの高齢者対策は

保健福祉課長ー緊急通報システムありその他町内事業所と見守りに対する協定書を結んでいる

質問：独自に見回り隊の事業創設はどうか。

保健福祉課長：平成29年度スタートの総合支援事業で見守りと安全確認を強化していく。

地域おこし協力隊導入の効果

～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取組～

地域おこし協力隊

- 自身の才能・能力を活かした活動
- 理想とする暮らしや生き甲斐発見

地域

- 斬新な視点(ヨソモノ・ワカモノ)
- 協力隊員の熱意と行動力が地域に大きな刺激を与える

地方自治体

- 行政ではできなかった柔軟な地域おこし策
- 住民が増えることによる地域の活性化

〈総務省HPより〉

地域おこし協力隊の取り入れはどうか

町長ーメニューを作って取り組みたい

町長：地域おこし協力隊には町の資源を利用して、地域おこしをしていくのが目的。そのためには受け入れ態勢のメニューをしっかり作り取り組みたい。メニューが出来たら予算措置をして、できれば年度内に進めていきたい。

質問：地域おこし協力隊を河津桜守り人制度に活用できないか。

町長：地域おこしの一環として行ってもらおうこととされるが、河津桜保護、育成計画は地域住民でしっかり河津桜を守っているというのが基本計画で、河津桜の保護育成を進めていくには町民の意識をしっかりと持ちましようということが最初とされている。

産業振興課長：本年度は河津桜守り人制度の創設と桜守り人の育成に取り組む。各地区より2名程度、一般公募も含め60名の守り人を育成認定し、河津桜の保護育成が出来る体制の整備を行う。

第4次総合計画の中間評価について

町長「検証する機関がない。現在のローリング方式で推進する。」



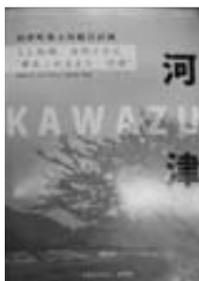
議員 土屋 貴

質問：私は、町における目標管理手法の定着を言ってきた。平成23年3月に策定された第4次総合計画は、中間点である5年目を迎える。当初計画の進捗状況をチェックすべきではないか。特に5つの基本施策と数値目標としてあげた、定住人口7、7000人、交流人口200万人の見直しは。

町長：中間評価については、長期的・短期的ローリングを持って施策の推進を図る。定住人口7、7000人に対し、この5年間で426人減少し7、676人。交流人口は18年を契機に減少傾向が続く26年は14万人。特に夏の観

光客数の減少が大きい。5つの基本政策については、毎年度重点テーマを定め計画の推進を図っている。子育て支援や医療体制の整備等、着実に成果を上げている。質問：計画策定時の平成32年人口予測は6、600人であった。当初から努力目標である。達成しないから悪いと言っているのではなく、5年間の経過を踏まえ、今後の5年間の努力過程を町民に示すべきだ。

町長：全国で消滅可能性都市896自治体あるが、河津町は伊豆半島の中で唯一入っていない。町の未婚率(25歳から29歳)は40%で静岡県内で、一番低い。高いところは65%になる。また、合計特殊出生率も高く、環境作りをしつかり進めていく。



第4次総合計画書

人口増加対策について

質問：日本創生会議座長増田寛也氏によると、人口減少していくには、第1段階は高齢人口の増加と生産・年少人口の減少。第2段階は高齢人口の微減と生産・年少人口の減少。第3段階は高齢人口の減少と生産・年少人口の減少の順になるといわれている。人口回復には、30年かかる。町としての生産人口確保策は。

町における転出・転入者の要因調査も必要。働く場所の確保は、医療・福祉産業と観光業の支援が重要だ。観光業については、「のびしろ」がある産業との調査結果がある。

町長：平成32年になると人口6、991人に減少し、高齢化率は43%になる予測がある。首都圏からの人口移動は少ないが、賀茂1市4町からの若い世代の移住が多くみられる。働く場所の確保という難しい課題がある。伊豆縦貫道の早期開通による通勤圏の拡大。生活環境の確保等を通じて若い世代が住みやすい

町にしたい。

伊豆縦貫道路について

質問：河津・下田間をはじめ工事が順調に進み、目に見えるようになってきた。今後の進捗予測はどうなっているか。

町長：平成30年度には、天城湯ヶ島インターまで供用開始。残り、天城峠越え道路と河津・下田の2期工事完成です。道路開通を見越して河津町を通過点にしない施策を行うことが私の役割。国土交通省等に要望に行く。道を作る事によりどのような成果が表れるのかを示せ、といわれる。

質問：4月に賀茂振興局が開設した。知事に陳情に行った際に、県庁のエースを送り出した、各市町が協力して町の発展に活用されたいとの話があった。県との会合は。

町長：賀茂圏域をいかに進めるかの会合があった。振興局の目的、どのような事業展開するか説明された。1回目会合であり、短期的・長期的視野に立ちどうするのも質問している。

一部事務組合報告

東河環境センター 第1回臨時会

6月16日第1回臨時会が開催された。議長、副議長の改選、東伊豆町組合議員の変更があった。

議長 土屋 貴
副議長 藤井 廣明

議案3号は「県市町総合事務組合」規約の変更について
内容は、「伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合」が本組合に加入することに伴い規約に加筆をするもの。何れも全員賛成可決。

議員説明会

6月9日、当局より議員説明会が開催された。

内容は、ごみ処理施設の延命化を図るため、再来年より3年間、大規模改修工事に着工する事が決まり詳細が説明された。なお、改修工事中も従来通りごみは処理される。

東河環境センターごみ処理施設大規模改修について

河津町、東伊豆町で一部事務組合を設置して運用している「東河環境センター(ごみ処理場)」は平成15年4月に稼動を開始してから、本年度13年を迎えるが、焼却炉の寿命が15年といわれている。

平成24年より東河環境センター施設整備等推進協議会を設置し、ごみ処理施設の新築を行うか現行施設を改修して延命化を図るか検討を重ねてきた。

その結果、施設の延命化が最適と決まり、本年は生活環境影響調査を実施し平成29年より3年間延命工事に着工、平成32年稼動開始、15年後の46年まで運用する。

今回の現行施設の大規模改修については、老朽化した廃棄物処理施設の適切な更新を行う一方、施設の改良による長寿命化を図ることで、地域における安全・

安心の確保を図る事を目的に国の「循環型社会形成推進交付金」の対象事業として実施する。

改修後は、焼却炉の省エネ化が進み、余熱を使った発電を行うことで電気代が大幅に減少する他、二酸化炭素の排出量も20%以上削減される。

施設改修工事の総事業費はおよそ35億7千万円、交付金と起債で30億6千万円、両町負担は約5億1千万円である。

議公を傍聴にきませんか?

議会は予算や決算、身近な問題などを話し合う大切な会議です。あなたも議会を聞きにきませんか。手続きは当日議場にて、住所・氏名の記載をするだけで傍聴できます。定例会は、午前10時から開会します。

問い合わせは議会事務局へ。
☎0558-341957



1年に4回の定例会

- 3月 (新年度の町予算の審議)
- 6月 (町政の進捗状況など)
- 9月 (前年度の町会計決算審議)
- 12月 (町事業の進捗状況の確認など)

お知らせ

「虚礼廃止」について

河津町議会は議員の年賀状・暑中見舞いなど、挨拶状は廃止する申し合わせをしました。町民の皆様のご理解・ご協力をお願い致します。



土屋 桑太郎 議長

議会の動き

〈議長活動〉

5月・町村議長会総会(静岡市)
 ・全国議長・副議長研修会
 (東京都)

・郡議長会総会 (松崎町)
 ・地方議会議長連絡協議会
 総会・研修会 (静岡市)

〈町議会活動〉

4月・議員月例会
 3月〜5月・例月出納検査報告
 6月・議会運営委員会
 3月、6月・議会広報編集委員会

〈常任委員会活動〉

3月・社会教育委員会
 ・文化の家運営協議会
 ・社会福祉協議会理事会
 ・学校給食運営審議会
 5月・社会福祉協議会理事会
 ・国民健康保険運営協議会

〈議長に要請の諸会〉

3月・交通安全対策委員会

・シルバー人材センター臨時総会

4月・伊豆の国市施行10周年記念式典

・河津ライオンズクラブ30周年記念式典

・西伊豆町施行10周年記念式典
 ・介護家族の会設立総会

5月・伊豆食品衛生協会河津支部総会

・第76回黒船祭記念式典
 ・下田警察署管内防犯協会総会

・商工会通常総会
 ・自衛隊協力会総会

6月・伊豆縦貫自動車道路建設促進期成同盟会要望活動

・観光協会総会

3月・さくら幼稚園卒園式
 ・河津中学校及び各小学校卒業式

4月・わかば保育園卒園式
 ・消防団入団式

・河津中学校及び各小学校入学式

・さくら幼稚園入園式
 ・河津バガテル公園オープン式典

6月・消防団操法訓練激励

私モ一言

河津町ママ有志の会

代表 山田 萌絵

河津町ママ有志の会は、「町の子育て支援事業に保護者の意見を反映してもらいたい」と考える、現在未就学児を持つ保護者有志から発足しました。

「河津町らしい子育て支援のあり方」を考察し、町の支援や保育サービスがより良い方向へ向かうことを目標としています。

それに伴い、議員や役場の方々にご協力いただき、この夏初めてアンケート調査を行うことになりました。対象は未就学児を持つご家庭です。例えば「観光産業の町だから休日保育を充実させてほしい」「こども園が欲しい」など、ママたちの求める保育ニーズや、子育て世帯の生活実態などを把握することを狙いとしています。同時に「町のこんな支援は助かった!」「この事業が楽しい!」など満足している部分も調査し、周知拡散や利用

用者増加支援につなげていきます。頂いたご意見は直接河津町に声を届ける予定です。

町の活性化には様々な指標がありますが、「人口」はとも重要です。安易ではありませんが、子育てがしやすい町には人が集まる。人口が増える町が発展する、と考えています。「子育てをするなら河津町」「住んで得する町、河津町」なんて言われたら素敵ですね。

理想論になってしまっていますが、会の活動が「未来の子供たちと保護者の為」になればいいなと願っています。(現在有志15名月に1、2度活動)

編集後記

昨年の町議会議員選挙からもうじき一年が経とうとしています。町の動きを解りやすく知って頂くこと編集に努め、この町が少しでも良くなって欲しいと願っております。また最近、各地で火山の噴火や地震が起きています。「備えあれば憂いなし」です。これから夏本番です、皆様のお身体を自愛下さいませ、お祈り申し上げます。(上村)